



2009～10 年度
国際ロータリー会長
ジョン・ケニー

Weekly Report Niigata



2009～10 年度
新潟ロータリー会長
小林 敬直



ロータリーの未来は
あなたの手の中に

2009～2010 年度 国際ロータリーのテーマ

新潟 RC 3 月第 3 例会 (2010.3.16) No.2840

(1) ロータリーソング「我らの生業」斉唱

(2) 小林 敬直会長挨拶

＜神去なあなあ日常＞

「神去なあなあ日常」という本をご紹介します。

いくつかの新聞の書評にも載りましたので、お読みになられた方もいらっしゃるかもしれませんが、お話しさせていただきます。

その内容は、高校を卒業したばかりの平野勇氣は大学に行く気はなく、きちんと就職する気もなく、フリーターでいやと卒業式までだらだら過ごしていたら、その当日に「就職先を決めてきてやったぞ」と担任。

林業に就職することを前提に、国が助成金を出す制度があり、親と担任が結託してそこに勝手に応募していたらしい。あつという間に山村に連れていかれると、圧倒的に若い者が少ないとの事情があり、ようやく林業の後継者志望が現れたと熱烈歓迎。これではいやですと帰りにくい。というわけで、平野勇氣青年の山での日々がはじまっていくことになる。

林業に従事する個性豊かな面々と触れ合ううちに（へんなおやじばかりだ）、この都会のひよっこが徐々に遅しくなっていく過程が見もの。

知らない世界の話は実に面白い。日本の山持ちの8割以上が20歳以下の山林しか持っていないから、山を買うときは斜面の下を誰が持っているかよく調べてから買ったほうがいいという。

なぜなら、三郎じいさんの言葉を借りると、「性根の悪いもんだと、下の土地を通るのを許してくれんのか。そうすると、せつかく切った木を運び下ろせんやろ」ということになるからだ。

あるいは、樹齢が20年を超えた森はだいたい5年おきに間伐し、良質の材になりそうな木だけを残していく、ということもある。間伐しないと木が密集しすぎて、生育の妨げになるからだ。

しかし、間伐しすぎてもよくない。特にヒノキは、日当たりがよすぎると枯れてしまうらしい。それに30年生ともなれば、間伐した木も材木として出荷される。

そういうことが次々に出てくる。山での出来事は神様の領域なので、お邪魔しているだけの人間はよけいなことに首

を突っ込まない、ということも語られる。流れている時間が都会とは違うのである。

平野勇氣は成績も悪く、勉強も好きではなく、かといって人生が決まっちゃうのもイヤなのできちんとした就職もする気はなく、誠に困った青年だった。将来を考えろと言われても、何十年も先の「将来」なんか想像できないし、要するに物事を深く考えないようにして、テキトーにフリーターでもしようと考えていたのである。

そのまま人生を送っても、多分ろくなことにはならなかっただろう。しかし両親と担任のおかげで、彼は未知の地で成長する。時には乱暴な斡旋が功を奏するということだろう。

今、この話には「ハッ場ダム」に代表される、ダムと治水の問題がいわれておりますが、今後ダムより山林による治水が主流となっていく様であります。

そして今、林業に少しづつ目が向いてきている様であります。その林業の現状と、その現実の厳しさを描いています。又 若者の就業問題も扱われています。両親と担任がフリーター指向の生徒を未知の林業という世界に導き、そこで成長をするという今の若者の就業問題を提起しています。山という大きな自然と人間の係りという点でとらえると、環境問題も考えさせられます。山村の祭りを通して、自然と神、というものが軸になれば環境問題は解決しないということも提起しています。そういうことを別にしても、とにかく面白い小説ですのでおすすめいたします。

(3) 委員会報告

- ・樋熊紀雄会長エレクトよりPETSの報告
- ・木滑孝一君へ米山功労者第4回マルチプル感謝状贈呈
- ・徳永昭輝君へ米山功労者第14回マルチプル感謝状贈呈
- ・宇尾野隆青少年交換副委員長より派遣学生の報告紹介

(4) 幹事報告（石井 和弘幹事）

- ・水原ロータリークラブ創立50周年記念式典が5月16日 阿賀野市水原保険センターで 懇親会が五十嵐邸ガーデンで開催されます。詳細申し込みは幹事か事務局へお願い致します。
- ・例会終了後70周年海外来賓接待委員会を4階「杉」で開催致します。

(5) 「ローターアクトの現状」

新潟ローターアクトクラブ 星野友孝会長

熊田亜由美（日本銀行）

3月23日の例会予定

米山奨学生 ダビド君のお話

一年交換学生 ステファノ君のお話

新潟ロータリークラブ創立70周年記念式典
2010年4月23日(金)